



Closing Report

www.innotrans.com



場所： メッセ・ベルリン/Berlin ExpoCenter City (ドイツ・ベルリン)
会期： 2022年9月20日(火)-23日(金)
主催： メッセ・ベルリン社
開催： 隔年開催

鉄道とモビリティ業界のサミット
4年ぶりの開催に出展者2,834社、
来場者数 137,394 人
出展者、来場者ともに大満足
数多くのビジネス案件



次回 InnoTrans 2024
2024年9月24日-27日

統計データ (2022)

出展者数	2,834/56カ国
うちドイツ国外の出展者数	1,910
ビジター総数	137,394人/131カ国
展示車両数	128
屋展示レールの長さ	3,500m
開催間隔	隔年

2022年9月20日から23日までベルリンで開催された InnoTrans 2022/国際鉄道技術専門見本市は、持続可能なモビリティを主要テーマとする業界の主要関係者が一堂に会し、出展者、来場者ともに大変満足な4日間となりました。ベルリンの広大な展示会場の全スペースに、56カ国から2,834社が出展し、ワールドプレミアの製品が250、128の実車両、バス14台など、モビリティ業界の多彩な製品・サービスが展示されました。特に代替エンジンやバッテリー、燃料電池を搭載した列車やバスが今回のトップテーマとなりました。そして131カ国から137,394人の来場者が、InnoTransで展開される製品とサービスの情報を求めて首都ベルリンに集結しました。

また、ポーランドの鉄道車両メーカー Pesaとポーランドの石油会社でガソリンスタンドを運営するPKN Orlenは、水素を動力とする鉄道車両分野での協力を InnoTransで合意しました。両社は共同コンソーシアムにおいて、鉄道事業者向けに、車両供給と水素供給・充填ソリューションの提案を行います。

そしてサウジアラビアは、同国鉄道システムの野心的な拡張計画を前進させ、サウジアラビア鉄道会社のCEOである Bashar Khalid Al Malik博士は、ドイツ鉄道やシーメンスと契約を締結しました。DBとのプロジェクトはナレッジトランスファーなど、シーメンスとはチケットینگに関するものでした。

またアルストムは、水素を燃料とする旅客列車“Coradia iLint”を乗客に実際に体験してもらうべく、ベルリン・シュパンダウからベルリン・オストバーンホフまで1日2往復走らせました。そして日立は、ディーゼル、電気、バッテリーの3つの駆動技術を組み合わせた“Blues-Train”を発表しています。フォスローが発表した“DM20”ハイブリッド機関車は、運転モードやエネルギー源の素早い切り替えが特徴です。

グローバル市場をつなぐInnoTrans

InnoTrans2022は、国際的な鉄道業界のフォーラム、そして業界の原動力として評判どおり盛況な開催となりました。InnoTrans会場において、ドイツ鉄道の Richard Lutz会長とウクライナ国鉄 Ukrzaliznyzja (UZ) の Oleksander Kamyshin CEOが、UZへの戦後の復興支援に関する覚書に調印し、これには、貨物輸送路やターミナル拡張への協力、鉄道運営・管理に関する欧州基準の導入に際しての幅広いコンサルティングなどの内容が含まれています。

持続可能なモビリティと快適な乗り心地

InnoTransの線路・屋外エリアは、多くの出展者のワールドプレミアのステージとなりました。メーカー各社の主要テーマはサステナビリティで、シーメンス・モビリティは、次世代水素列車“Mireo Plus H”と、モジュール式の高性能バッテリーシステムを搭載した“Mireo Plus B”を披露しました。シュタッドラーは、アメリカの旅客輸送向けに、水素を動力とする“FLIRT H2”を初公開しました。

ドイツ鉄道は、イノベティブな“Ideenzug”を複数出展しました。そのうち未来のコンセプトである“City”は、デジタルのハンブルク市Sバーン中央車両で体験でき、またDB Regioは、実物の“Ideenzug”である南東バイエルン鉄道の実物の2階建て車両を屋外線路エリアに展示しました。

バスディスプレイ部門のハイライトは今年も会場サマーガーデンの500mのテストコースを走る14台のバスでした。ソリスは“Solaris Urbino 18 hydrogen”、ŠKODA H-CITYを初披露しました。Van Hoolは電気バス“A12”を、Ebuscoは完全電動シティバス“3.0”を出展し、ベルリン交通局(BVG)の新型Eバス“2.2”も展示されました。

InnoTrans Plus

Innotrans開催中も討論会、講演会、イベントなど多様なプログラムで常に情報提供されていましたが、開催後も、オンラインプラットフォームであるInnoTrans PlusでInnoTransをご覧いただけます



日本のプレゼンス

日本鉄道システム輸出組合（JORSA）がとりまとめる日本ブース共同出展者：

- 近畿車輛 (株)
- NKKスイッチズ (株)
- 国際協力機構 JAICA
- コンビウィズ (株)
- (株)大同キャスティングス
- 東京地下鉄 (株)
- 東洋電機製造 (株)
- 日本車輛洗淨機 (株)
- 日本信号 (株)
- (株) ヤシマキザイ

(50音順)

日本からの単独出展者：

- (株) IHI
 - 倉敷紡績(株)
 - コンドーテック (株)
 - スガツネ工業 (株)
 - (株) 総合車両製作所
 - タムラ製作所
 - ディサイン (株)
 - ニッタ化工品(株)
 - (株) ニシヤマ
- (共同出展ヤマトプロテック(株))

- 日立金属 (株)
- (株) 日立製作所
- 三菱電機 (株)
- (株) 明電舎

Save the date!
InnoTrans 2024
2024年9月24日
- 9月27日

出展者のコメント

Alstom社CEO兼取締役会会長、Henri Poupart-Lafarge氏：

InnoTrans 2022 は、輸送の革新に対する共通の情熱を共有するユニークなフォーラムであるという目標を、今回も達成することができました。アルストムチームは、当社の持続可能なデジタルモビリティソリューションを体験するために世界中から集まった数千人の来場者に感謝したいと思います。4年ぶりに再び業界が集結したことは、大きな喜びでした。サステナビリティへのコミットメントとモーダルシフトの呼びかけを再確認する機会となりました。ベルリンで生まれた多くのビジネスチャンスの中でも、サウジアラビアとアラブ首長国連邦との間で締結された覚書は、最も環境に優しい鉄道ネットワークに貢献するという我々の目標を支えるものであり、注目したいと思います。

Stadler Rail AG社CEO、Peter Spuhler氏：

シュタドラーは、InnoTransにおいて、7台の超近代的で持続可能な車両と、信号およびサービス分野における幅広いポートフォリオにより、鉄道のための持続可能なソリューションの革新的プロバイダであることを示しました。ワールドプレミアは、お客様から圧倒的な反響がありました。スタドラーの大型ステーションでは、代替駆動技術のマーケットリーダーとして、米国初の水素で動くマルチユニット「FLIRT H2」などを紹介しました。InnoTrans期間中に、カリフォルニア州交通局およびカリフォルニア州運輸省との間で、4台の水素鉄道の納入に関する意向書を締結することができました。また、バッテリー駆動のFLIRT Akku、最新世代のトラムTINA、最新の機関車EURO9000シリーズなどの展示にも大きな関心を寄せていただきました。

ドイツ交通事業主協会 (VDV) 最高責任者、Martin Schmitz氏：

InnoTrans 2022は素晴らしい見本市でした。中国からの出展は4年前より少なく、ロシアからの出展は全くなかったものの、2018年と同程度の参加者があり、最終日まで、さらに質の高いビジネスコンタクトが行われたのです。これは、次の2年間への楽観的な見方を示しています。その一方で、業界には暗雲が立ち込めています。エネルギー危機、原材料価格、法外なエネルギーコストによって、私たちの企業は苦境に立たされています。ここで、政治は定説にとらわれず、迅速に行動しなければなりません。何もしなければ、企業はあきらめるか、国外に逃避するしかなくなってしまいます。

Deutsche Bahn社CEO、Richard Lutz氏：

鉄道の未来は、強力なパートナーとともにしか切り開くことはできません。だからこそ、InnoTransでの業界内の交流はとても重要なのです。私たちDBにとって、InnoTrans 2022は完全な成功でした。

Siemens Mobility 社CEO、Michael Peter氏：

InnoTransは業界で最も重要な会合であり、4年ぶりによろやくお客様やパートナーに直接お会いすることができ、大変嬉しく思っています。“Destination Digital”をモットーに、シーメンスの新しいデジタルビジネスプラットフォームSiemens Xceleratorを紹介し、鉄道ネットワークのすべてのサブシステム間で継続的にデータを交換するためのオープンデジタルインターフェースを実現することを訴求しました。このようにして、私たちは、お客様が持続可能で快適、かつコスト効率の高い未来の鉄道輸送を提供できるよう支援しています。

UNIFE事務局長、Philippe Citroën氏：

4年間のパンデミックブレイクを経て、再び鉄道関係者全員と直接会うことができる素晴らしい機会でした。InnoTransへの参加は、グリーンティール、欧州単一鉄道圏、それを実現するための技術や革新、運用開始までに行わなければならない法律や技術の進展という観点から、UNIFEと欧州鉄道供給業界の優先事項を推進する上で戦略的に重要なものでした。

メッセ・ベルリン日本代表部

〒107-0052 東京都港区赤坂 7-5-56
ドイツ文化会館4F mbj (株) 内Tel: 03-6426-5628
mbj@messe-berlin.jp